

梅原英治教授の退職記念号の発刊にあたって

大阪経済大学経済学部長 小 川 雅 弘

梅原英治教授が2018年3月をもって定年退職されました。1996年4月に着任されて以来、22年間にわたって本学の教育・研究活動・管理運営に御貢献くださった梅原先生に対し大阪経大会から『大阪経大論集——梅原英治教授退職記念号』を発刊し、これまでのご尽力に対して感謝の意を表します。

梅原先生は、1950年にお生まれになり、1980年3月に立命館大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学後、1991年に鹿児島経済大学経済学部へ助教授として赴任され、その後1996年4月に本学に教授として御着任されました。

梅原先生の御専門は財政学で、とくに財政と金融の接点である財政投融资、国庫収支、国債、地方債に関して多くの研究を公表されています。学会の運営においても、大阪自治体問題研究所評議員・日本租税理論学会常任理事・日本地方財政学会理事・日本財政学会理事を務められています。

梅原先生は「財政学」・「財政政策」の授業を御担当されてきました。教育に関して忘れてはならないのが大学院生の指導です。多数の税理士志望者が大学院経済学研究科に在籍してきましたが、梅原先生は担当者としてその指導に大変ご尽力されました。その際、志望動機にかかわらず、修士論文の水準を落とさないように熱心にご指導されました。

梅原先生は、大学の運営についても大きな功績をあげられました。地域政策学科長予定者、引き続き初代の地域政策学科長（2002年4月～2003年3月）として地域政策学科創設に尽力されました。当時、経済学部長室で梅原先生が本多三郎副学部長（当時）と地域政策学科のカリキュラムなどを練っているのを、学部長補佐だった私は横から見ていたことを思い出します。2004年12月から2006年3月および2007年5月から2010年10月まで学校法人大阪経済大学の理事を務められ、財務・企画担当として法人運営の近代化に努められました。さらに2011年度から2012年度に経済学部長・法人理事、2013年度から2014年度に大学院経済学研究科長を務められました。その後も2014年7月から2017年7月まで法人評議員を務められ、大学運営の正常化に尽力されました。同じ評議員として若干ではありますがその手助けできましたことは、私の誇りです。

定年御退職後も、梅原先生は特任教授として学生・大学院生の御指導に当たられます。梅原先生の今後の研究・教育の益々のご発展とご健康を祈念して、この退職記念号を献呈させていただきます。

梅原先生、ありがとうございました。